

ふりがな 氏名	はなわ 埴(ケニー) すぎこ 杉子	職名	助教
取得学位	博士(医学)	学会での受賞歴	なし
主な担当科目	発達障害作業療法学, 作業療法治療学特論 I (学校・仕事), 基礎ゼミナール		
所属学会	日本作業療法士協会, 愛知県作業療法士会, 認知神経リハビリテーション学会, 臨床作業療法学会		

◆ 教育業績

事項	実施年月(日)	概要
1 教育方法の実践例		
① 面接の実施(個人に対応した教育の実践)	令和2年から令和4年3月末まで	作業療法学科2年生の担任を拝命された。毎月1度は学生面談の時間を一人15-30分程度設け、面談室にて行った。その後、必要に応じてご家族に電話やZoomでの面談、来校していただき本人も含めての面談も実施した。定期面談を行うことで学生一人一人の学校生活(学業状況)やアルバイト、家庭の状況などを知ることができ、教員との信頼関係の構築に寄与できた。また、親御様との信頼関係も構築でき、場合によっては親御様の協力も得ることができた。そのかいもあり、一人も休学や退学には至っていない。
② 確認テスト、小テストを用いた教育の実践	令和2年から令和5年2月末まで	人間関係論を除いたすべての科目において、学習効果を確認するため、毎回の講義の中で確認テスト、1~3回ごとの講義で1回小テストを実施した。また、小テストを集めたものを中心に定期試験とすることで、学生にとって何が重要でどこを中心に理解するべきかがわかりやすい仕組みとした。 そのようにスモールステップ、繰り返しで学習に取り組めるため、出席が重要となり、出席さえすれば定期試験はそれほど怖くないものとなる。また、学生の理解にもつながりやすい方法であると感じられた。
③ マルチメディア・視覚教材の利用	令和2年から令和5年2月末まで	人間発達学の授業や、実習報告の発表会、文献検索などの授業、NIコンテストという学校のイベントにおいて、プレゼンテーションソフト(パワーポイント)による学生発表、インターネットによる文献検索(医中誌)などマルチメディアを活用した。また発達障害評価学や治療学の授業においては視覚教材を用いながら疾病の特徴や障害の特性など理解しやすい工夫した。
④ e-mail・学生ポータルの利用	令和2年から令和5年2月末まで	学生全体におすすめの参考書や無料の勉強会・研修会、見学会などは学生ポータルにて配信した。また、不安が強い学生などにおいてはe-mailで対応することで学生の意欲向上に繋がった経験をした。

事 項	実 施 年月(日)	概 要
⑤ 臨床実習施設との連携	令和2年から令和5年2月末まで	臨床実習における教育を充実するためには、実習指導者に養成校の教育目標や理念をしっかりと伝え、実践していただくことが重要であると考えている。そのためには、指導者との密な連携は大切である。そこで、実習施設に対し、臨床実習中の連絡は当然のこと、臨床実習地に出向き信頼関係の構築を図るよう心がけた。結果として、実習地の確保や臨床実習における学生教育に大きく貢献する成果をあげた。
2 作成した教科書、教材 ①勉強会用資料	令和元年1月～3月	NPO 法人はびりす(多機能型施設)にて非常勤として勤務していた際に、計4回の勉強会を、セラピスト向け(作業療法士・理学療法士・言語聴覚士)に開催した。毎回テーマを設け、1)研究に関する情報 2)質的研究について 3)脳機能について 4)これまでとこれからの研究について実施した。臨床現場で働くセラピストらから、具体的な質問や提案などを聞くことができ、今後も臨床と研究を繋いでいくことが重要であると再認識した。
②講義用資料	令和2年4月から令和5年2月末まで	担当した科目のうち、作業療法概論、小児科学、人間発達学、人間関係論、実習前特別講義、解剖学、発達障害評価学、発達障害治療学Ⅰ、Ⅱにおいて、オリジナル講義用のレジュメを作成し、それをもとに授業を展開した。自身が作成した資料を配布することで、教員が伝えたい内容が学生に明確に伝わる、資料に沿った講義の展開ができるなどの効果を認めている。
3 教育用の能力に関する大学等の評価 学生評価	令和2年～令和4年12月	名古屋医専では前期・後期とそれぞれ科目ごとにVOSという学生評価を実施していた。作業療法学科の学生(全学科・担当科目)のみならず、理学療法学科の1年生(医療英語・人間関係論)、言語聴覚学科の1年生(作業療法概論)に対しても実施した。1～5の5段階評価で、他学科の評価は4.7～5.0点、作業療法学科での評価は4.1～4.9点であった。学生評価というのは難しい面もある一方で(簡単なテストにしたり学生の都合に合わせて高得点をつける学生もいる、学生の能力によって印象が変わる、人数が少ないと平均が意味を持たなくなるなど)、教員の振り返りのため、質の向上のため、学生の心の声を聴くためには必要なものであると考えている。
その他 学童保育指導員ら、作業療法士らへの講義(オンライン無料講座)	令和2年7月	岡山県学童保育連絡協議会会長糸山氏に依頼され、毎週火曜日21時～22時半に行っている作業療法士に注目した他職種オンライン交流会「OTIT」にて講師として発表した。タイトル『インクルーシブ教育とは？アイルランドと日本の教育の違い、現状』

事 項	実 施 年月(日)	概 要
学童保育指導員ら，作業療法士らへの講義（オンライン無料講座）	令和2年8月	岡山県学童保育連絡協議会会長糸山氏に依頼され，毎週火曜日21時～22時半に行っている作業療法士に注目した他職種オンライン交流会「OTIT」にて講師として発表した。タイトル『インクルーシブ学童研究』
学童保育指導員ら，作業療法士らへの講義（オンライン無料講座）	令和4年12月27日	岡山県学童保育連絡協議会会長糸山氏に依頼され，毎週火曜日21時～22時半に行っている作業療法士に注目した他職種オンライン交流会「OTIT」にて講師として発表した。タイトル『母の心はどこから来るの？』

◆ 研究業績

区 分	著書・論文・発表テーマ・ 作品・演目などの名称	単 ・ 共	発 行・ 発 表 年月(日)	発行所／誌名・巻号 ／学会・展覧会・演 奏会の名称(会場名)	備 考
著 書	1. 「みんなでつなぐ読み書き支援プログラム フローチャートで分析，子どもに応じたオーダーメイドの支援」 ISBN-13 978-4863422766	共	2020年1月	クリエイツかもがわ	奥津光佳，高畑脩平，萩原広道。編集 アドバイザーとして著者に協力し，主に，脳機能や発達障害に関する記述や図，本文記載している英文雑誌・和文雑誌の内容をチェックした。
	2. 「いちばんはじめの本 赤ちゃんをむかえる前から読む発達のレシピ」 ISBN978-4-86342-322-0 C0077	共	2021年11月	クリエイツかもがわ	井川典克／監修 大村祥恵・町村純子・特定非営利活動法人はびりす／編著 Part2: 胎児期から親子で発達 P60-64, Part3: 子どもの自然な育ちを応援 P76-81 を執筆した。
	3. 「子どもと作業中心の実践 OCP 作業療法ガイドブック」 ISBN978-4-86342-338-1 C3047	共	2022年12月	クリエイツかもがわ	シルビア・ロジャー，アン・ネディバー／著 塩津裕康，三浦正樹／監訳・訳 最新の作業療法理論と研究に根ざした，エビデンスに基づく作業療法実践をガイド。子どもや家族の人生に貢献したいと願う全ての作業療法士・作業療法を学ぶ人に必読の書。 第3章(子ども・家族中心のサービス提供)P58-85 と 5章(子ども・家族と作業の目標設定)P105-124 を翻訳した。

区分	著書・論文・発表テーマ・ 作品・演目などの名称	単 ・ 共	発行・ 発表 年月(日)	発行所／誌名・巻号 ／学会・展覧会・演 奏会の名称(会場名)	備 考
論文	1. Refractive error is associated with intracranial volume. 視力と脳形態の関連の論文 (査読付)	共	2018年1月	Sci Rep. 9;8(1):175.	Takeuchi H, Taki Y, Nouchi R, Yokoyama R, Kotozaki Y, Nakagawa S, Sekiguchi A, Iizuka K, Yamamoto Y, Hanawa S , Araki T, Miyauchi CM, Shinada T, Sakaki K, Sassa Y, Nozawa T, Ikeda S, Yokota S, Daniele M, Kawashima R.
	2. Allergic tendencies are associated with larger gray matter volumes. アレルギーと局所灰白質量と認知機能の関連 (査読付)	共	2018年2月	Sci Rep. 2018 Feb 27;8(1):3694.	Takeuchi H, Taki Y, Nouchi R, Yokoyama R, Kotozaki Y, Nakagawa S, Sekiguchi A, Iizuka K, Yamamoto Y, Hanawa S , Araki T, Miyauchi CM, Sakaki K, Nozawa T, Ikeda S, Yokota S, Daniele M, Sassa Y, Kawashima R.
	3. Effects of Time-Compressed Speech Training on Multiple Functional and Structural Neural Mechanisms Involving the Left Superior Temporal Gyrus. 英語の time compressed speech 訓練が及ぼした左上側頭皮質を含む多くの局所脳機能・構造変化 (査読付)	共	2018年2月	Neural Plast. 2018 Feb 20;2018:6574178.	Maruyama T, Takeuchi H, Taki Y, Motoki K, Jeong H, Kotozaki Y, Nakagawa S, Nouchi R, Iizuka K, Yokoyama R, Yamamoto Y, Hanawa S , Araki T, Sakaki K, Sasaki Y, Magistro D, Kawashima R.
	4. Shorter sleep duration and better sleep quality are associated with greater tissue density in the brain. 睡眠時間が短かったり、睡眠が深かったりすると水の拡散性が低い (査読付)	共	2018年4月	Sci Rep.11;8(1):5833.	Takeuchi H, Taki Y, Nouchi R, Yokoyama R, Kotozaki Y, Nakagawa S, Sekiguchi A, Iizuka K, Yamamoto Y, Hanawa S , Araki T, Miyauchi CM, Shinada T, Sakaki K, Nozawa T, Ikeda S, Yokota S, Daniele M, Sassa Y, Kawashima R. 担当:実験全般
	5. General intelligence is associated with working memory-related brain activity: new evidence from a large sample study.. (査読付)	共	2018年12月	Brain Struct Funct. 2018 Dec;223(9):4243-4258. doi: 10.1007/s00429-018-1747-5	Takeuchi H, Taki Y, Nouchi R, Yokoyama R, Kotozaki Y, Nakagawa S, Sekiguchi A, Iizuka K, Hanawa S , Araki T, Miyauchi CM, Sakaki K, Sassa Y, Nozawa T, Ikeda S, Yokota S, Daniele M, Kawashima R.

区分	著書・論文・発表テーマ・作品・演目などの名称	単・共	発行・発表年月(日)	発行所／誌名・巻号／学会・展覧会・演奏会の名称(会場名)	備考
論文	6. Empathizing associates with mean diffusivity. (査読付)	共	2019年1月	Sci Rep. 2019 Jun 20;9(1):8856. doi: 10.1038/s41598-019-45106-1.	Takeuchi H, Taki Y, Nouchi R, Yokoyama R, Kotozaki Y, Nakagawa S, Sekiguchi A, Iizuka K, Yamamoto Y, Hanawa S , Araki T, Miyauchi CM, Sakaki K, Sassa Y, Nozawa T, Ikeda S, Yokota S, Daniele M, Kawashima R.
	7. Neural substrates of self- and external-preoccupation: A voxel-based morphometry study. (査読付)		2019年1月	Brain Behav. 2019 Jun;9(6):e01267. doi: 10.1002/brb3.1267.	Ikeda S, Takeuchi H, Taki Y, Nouchi R, Yokoyama R, Nakagawa S, Sekiguchi A, Iizuka K, Hanawa S , Araki T, Miyauchi CM, Sakaki K, Nozawa T, Yokota S, Magistro D, Kawashima R.
	8. The Effects of Family Socioeconomic Status on Psychological and Neural Mechanisms as Well as Their Sex Differences. (査読付)	共	2019年1月	Front Hum Neurosci. 2019 Jan 18;12:543. doi: 10.3389/fnhum.2018.00543.	Takeuchi H, Taki Y, Nouchi R, Yokoyama R, Kotozaki Y, Nakagawa S, Sekiguchi A, Iizuka K, Yamamoto Y, Hanawa S , Araki T, Miyauchi CM, Sakaki K, Nozawa T, Ikeda S, Yokota S, Magistro D, Sassa Y, Kawashima R.
	9. Mean diffusivity related to collectivism among university students in Japan. (査読付)		2019年2月	Sci Rep. 2019 Feb 4;9(1):1338. doi: 10.1038/s41598-018-37995-5.	Nakagawa S, Takeuchi H, Taki Y, Nouchi R, Kotozaki Y, Shinada T, Maruyama T, Sekiguchi A, Iizuka K, Yokoyama R, Yamamoto Y, Hanawa S , Araki T, Miyauchi CM, Magistro D, Sakaki K, Jeong H, Sasaki Y, Kawashima R.
	10. Association of copper levels in the hair with gray matter volume, mean diffusivity, and cognitive functions. (査読付)	共	2019年4月	Brain Struct Funct. 2019 Apr;224(3):1203-1217. doi: 10.1007/s00429-019-01830-y.	Takeuchi H, Taki Y, Nouchi R, Yokoyama R, Kotozaki Y, Nakagawa S, Sekiguchi A, Iizuka K, Yamamoto Y, Hanawa S , Araki T, Miyauchi CM, Sakaki K, Nozawa T, Ikeda S, Yokota S, Daniele M, Sassa Y, Kawashima R.
11. Neural responses to action contingency error in different cortical areas are attributable to forward prediction or sensory processing.	共	2019年7月	Sci Rep. 2019 Jul 8;9(1):9847. doi: 10.1038/s41598-019-46350-1.	Kikuchi T, Sugiura M, Yamamoto Y, Sasaki Y, Hanawa S , Sakuma A, Matsumoto K, Matsuoka H, Kawashima R.	

区分	著書・論文・発表テーマ・ 作品・演目などの名称	単 ・ 共	発行・ 発表 年月(日)	発行所／誌名・巻号 ／学会・展覧会・演 奏会の名称(会場名)	備 考
論 文	12. A Common CACNA1C Gene Risk Variant has Sex-Dependent Effects on Behavioral Traits and Brain Functional Activity. (査読付)	共	2019年7月	Cereb Cortex. 2019 Jul 22;29(8):3211-3219. doi: 10.1093/cercor/bhy189.	Takeuchi H, Tomita H, Taki Y, Kikuchi Y, Ono C, Yu Z, Nouchi R, Yokoyama R, Kotozaki Y, Nakagawa S, Sekiguchi A, Iizuka K, Hanawa S , Araki T, Miyauchi CM, Sakaki K, Nozawa T, Ikeda S, Yokota S, Magistro D, Sassa Y, Kawashima R.
	13. Mean diffusivity associated with trait emotional intelligence. (査読付)	共	2019年8月	Soc Cogn Affect Neurosci. 2019 Aug 31;14(8):871-883. doi: 10.1093/scan/nsz059.	Takeuchi H, Taki Y, Nouchi R, Yokoyama R, Kotozaki Y, Nakagawa S, Sekiguchi A, Iizuka K, Yamamoto Y, Hanawa S , Araki T, Miyauchi CM, Sakaki K, Sassa Y, Nozawa T, Ikeda S, Yokota S, Daniele M, Kawashima R.
	14. Mean diffusivity related to rule-breaking guilt: the Macbeth effect in the sensorimotor regions. (査読付)	共	2019年8月	Sci Rep. 2019 Aug 22;9(1):12227. doi: 10.1038/s41598-019-48654-8.	Nakagawa S, Takeuchi H, Taki Y, Nouchi R, Kotozaki Y, Shinada T, Maruyama T, Sekiguchi A, Iizuka K, Yokoyama R, Yamamoto Y, Hanawa S , Araki T, Makoto Miyauchi C, Magistro D, Sakaki K, Jeong H, Sasaki Y, Kawashima R.
	15. The pitfall of empathic concern with chronic fatigue after a disaster in young adults. (査読付)	共	2019年11月	BMC Psychiatry. 2019 Nov 4;19(1):338. doi: 10.1186/s12888-019-2323-0.	Nakagawa S, Sugiura M, Sekiguchi A, Kotozaki Y, Miyauchi CM, Hanawa S , Araki T, Sakuma A, Kawashima R.
	16. Association of iron levels in hair with brain structures and functions in young adults. (査読付)	共	2020年3月	J Trace Elem Med Biol. 2020 Mar;58:126436. doi: 10.1016/j.jtemb.2019.126436.	Takeuchi H, Taki Y, Nouchi R, Yokoyama R, Kotozaki Y, Nakagawa S, Sekiguchi A, Iizuka K, Yamamoto Y, Hanawa S , Araki T, Miyauchi CM, Sakaki K, Nozawa T, Ikeda S, Yokota S, Daniele M, Sassa Y, Kawashima R.
	17. Convergent creative thinking performance is associated with white matter structures: Evidence from a large sample study.. (査読付)	共	2020年4月	Neuroimage. 2020 Apr 15;210:116577. doi: 10.1016/j.neuroimage.2020.116577	Takeuchi H, Taki Y, Matsudaira I, Ikeda S, Dos S Kawata KH, Nouchi R, Sakaki K, Nakagawa S, Nozawa T, Yokota S, Araki T, Hanawa S , Ishibashi R, Yamazaki S, Kawashima R.

区 分	著書・論文・発表テーマ・ 作品・演目などの名称	単 ・ 共	発 行・ 発 表 年 月 (日)	発行所／誌名・巻号 ／学会・展覧会・演 奏会の名称(会場名)	備 考
論 文	18. Differential roles of amygdala and posterior superior temporal sulcus in social scene understanding. (査読付)	共	2020年10月	Soc Neurosci. 2020 Oct;15(5):516-529. doi: 10.1080/17470919.2020.1793811.	Oba K, Sugiura M, Hanawa S , Suzuki M, Jeong H, Kotozaki Y, Sasaki Y, Kikuchi T, Nozawa T, Nakagawa S, Kawashima R.
	19. The associations of BMI with mean diffusivity of basal ganglia among young adults with mild obesity and without obesity. (査読付)	共	2020年07月	Sci Rep. 2020 Jul 28;10(1):12566. doi: 10.1038/s41598-020-69438-5.	Takeuchi H, Taki Y, Nouchi R, Yokoyama R, Nakagawa S, Iizuka K, Sakaki K, Araki T, Nozawa T, Ikeda S, Yokota S, Hanawa S , Magistro D, Kotozaki Y, Sasaki Y, Dos S Kawata KH, Kawashima R.
	20. Succeeding in deactivating: associations of hair zinc levels with functional and structural neural mechanisms. (査読付)	共	2020年7月	Sci Rep. 2020 Jul 23;10(1):12364. doi: 10.1038/s41598-020-69277-4.	Takeuchi H, Taki Y, Nouchi R, Yokoyama R, Kotozaki Y, Nakagawa S, Sekiguchi A, Iizuka K, Hanawa S , Araki T, Miyauchi CM, Sakaki K, Nozawa T, Ikeda S, Yokota S, Magistro D, Sassa Y, Kawashima R.
	21. Effect of the interaction between BDNF Val66Met polymorphism and daily physical activity on mean diffusivity. (査読付)	共	2020年6月	Brain Imaging Behav. 2020 Jun;14(3):806-820. doi: 10.1007/s11682-018-0025-8.	Takeuchi H, Tomita H, Taki Y, Kikuchi Y, Ono C, Yu Z, Sekiguchi A, Nouchi R, Kotozaki Y, Nakagawa S, Miyauchi CM, Iizuka K, Yokoyama R, Shinada T, Yamamoto Y, Hanawa S , Araki T, Kunitoki K, Sassa Y, Kawashima R.
	22. Originality of divergent thinking is associated with working memory-related brain activity: Evidence from a large sample study.. (査読付)	共	2020年8月	Neuroimage. 2020 Aug 1;216:116825. doi: 10.1016/j.neuroimage.2020.116825	Takeuchi H, Taki Y, Nouchi R, Yokoyama R, Kotozaki Y, Nakagawa S, Sekiguchi A, Iizuka K, Hanawa S , Araki T, Miyauchi CM, Sakaki K, Sassa Y, Nozawa T, Ikeda S, Yokota S, Magistro D, Kawashima R.
	23. Brain microstructural properties related to subjective well-being: diffusion tensor imaging analysis. (査読付)	共	2021年9月	Soc Cogn Affect Neurosci. 2021 Sep 30;16(10):1079-1090. doi: 10.1093/scan/nsab063.	Maeda CT, Takeuchi H, Nouchi R, Yokoyama R, Kotozaki Y, Nakagawa S, Sekiguchi A, Iizuka K, Hanawa S , Araki T, Miyauchi CM, Sakaki K, Nozawa T, Ikeda S, Yokota S, Magistro D, Sassa Y, Taki Y, Kawashima R.

区 分	著書・論文・発表テーマ・ 作品・演目などの名称	単 ・ 共	発 行・ 発 表 年 月(日)	発行所／誌名・巻号 ／学会・展覧会・演 奏会の名称(会場名)	備 考
論 文	24. Lead exposure is associated with functional and microstructural changes in the healthy human brain. (査読付)	共	2021年7月	Commun Biol. 2021 Jul 26;4(1):912. doi: 10.1038/s42003-021-02435-0.	Takeuchi H, Taki Y, Nouchi R, Yokoyama R, Kotozaki Y, Nakagawa S, Sekiguchi A, Iizuka K, Hanawa S , Araki T, Miyauchi CM, Sakaki K, Nozawa T, Ikeda S, Yokota S, Daniele M, Sassa Y, Kawashima R.
	25. General Intelligence Is Associated with Working Memory-Related Functional Connectivity Change: Evidence from a Large-Sample Study. (査読付)	共	2021年3月	Brain Connect. 2021 Mar;11(2):89-102. doi: 10.1089/brain.2020.0769.	Takeuchi H, Taki Y, Nouchi R, Yokoyama R, Kotozaki Y, Nakagawa S, Sekiguchi A, Iizuka K, Hanawa S , Araki T, Miyauchi CM, Sakaki K, Sassa Y, Nozawa T, Ikeda S, Yokota S, Magistro D, Kawashima R.
	26. Effects of training of shadowing and reading aloud of second language on working memory and neural systems. (査読付)	共	2021年6月	Brain Imaging Behav. 2021 Jun;15(3):1253-1269. doi:10.1007/s11682-020-00324-4.	Takeuchi H, Maruyama T, Taki Y, Motoki K, Jeong H, Kotozaki Y, Shinada T, Nakagawa S, Nouchi R, Iizuka K, Yokoyama R, Yamamoto Y, Hanawa S , Araki T, Sakaki K, Sasaki Y, Magistro D, Kawashima R.
	27. Sex-Dependent Effects of the APOE ε4 Allele on Behavioral Traits and White Matter Structures in Young Adults. (査読付)	共	2021年1月	Cereb Cortex. 2021 Jan 1;31(1):672-680. doi: 10.1093/cercor/bhaa251.	Takeuchi H, Tomita H, Browne R, Taki Y, Kikuchi Y, Ono C, Yu Z, Nouchi R, Yokoyama R, Kotozaki Y, Nakagawa S, Sekiguchi A, Iizuka K, Hanawa S , Araki T, Miyauchi CM, Sakaki K, Nozawa T, Ikeda S, Yokota S, Magistro D, Sassa Y, Kawashima R.
	28. Polygenic risk score for bipolar disorder associates with divergent thinking and brain structures in the prefrontal cortex. (査読付)	共	2021年12月	Hum Brain Mapp. 2021 Dec 15;42(18):6028-6037. doi:10.1002/hbm.25667.	Takeuchi H, Kimura R, Tomita H, Taki Y, Kikuchi Y, Ono C, Yu Z, Matsudaira I, Nouchi R, Yokoyama R, Kotozaki Y, Nakagawa S, Hanawa S , Iizuka K, Sekiguchi A, Araki T, Miyauchi CM, Ikeda S, Sakaki K, Dos S Kawata KH, Nozawa T, Yokota S, Magistro D, Imanishi T, Kawashima R.

区分	著書・論文・発表テーマ・ 作品・演目などの名称	単 ・ 共	発行・ 発表 年月(日)	発行所／誌名・巻号 ／学会・展覧会・演 奏会の名称(会場名)	備 考
論 文	29. Brain structures and activity during a working memory task associated with internet addiction tendency in young adults: A large sample study. (査読付)	共	2021年11月	PLoS One. 2021 Nov 15;16(11):e0259259. doi: 10.1371/journal.pone.0259259.	Sadeghi S, Takeuchi H, Shalani B, Taki Y, Nouchi R, Yokoyama R, Kotozaki Y, Nakagawa S, Sekiguchi A, Iizuka K, Hanawa S , Araki T, Miyauchi CM, Sakaki K, Nozawa T, Ikeda S, Yokota S, Magistro D, Sassa Y, Kawashima R.
	30. Shame proneness is associated with individual differences in temporal pole white matter structure. (査読付)	共	2022年4月	Soc Neurosci. 2022 Apr;17(2):117-126. doi: 10.1080/17470919.2022.2039287.	Miyauchi CM, Takeuchi H, Taki Y, Nakagawa S, Hanawa S , Sekiguchi A, Nouchi R, Sassa Y, Kawashima R.
	31. Loneliness inside of the brain: evidence from a large dataset of resting-state fMRI in young adult. (査読付)	共	2022年5月	Sci Rep. 2022 May 12;12(1):7856. doi: 10.1038/s41598-022-11724-5.	Brilliant T D, Takeuchi H, Nouchi R, Yokoyama R, Kotozaki Y, Nakagawa S, Hanawa S , Sekiguchi A, Ikeda S, Sakaki K, Kawata KHDS, Nozawa T, Yokota S, Magistro D, Kawashima R.
	32. Mercury levels in hair are associated with reduced neurobehavioral performance and altered brain structures in young adults. (査読付)	共	2022年6月	Commun Biol. 2022 Jun 2;5(1):529. doi: 10.1038/s42003-022-03464-z.	Takeuchi H, Shiota Y, Yaoi K, Taki Y, Nouchi R, Yokoyama R, Kotozaki Y, Nakagawa S, Sekiguchi A, Iizuka K, Hanawa S , Araki T, Miyauchi CM, Sakaki K, Nozawa T, Ikeda S, Yokota S, Magistro D, Sassa Y, Kawashima R.
	33. Brain Anatomy Alterations and Mental Health Challenges Correlate to Email Addiction Tendency. (査読付)	共	2022年9月	Brain Sci. 2022 Sep 22;12(10):1278. doi: 10.3390/brainsci12101278.	Sadeghi S, Takeuchi H, Shalani B, Taki Y, Nouchi R, Yokoyama R, Kotozaki Y, Nakagawa S, Sekiguchi A, Iizuka K, Hanawa S , Araki T, Miyauchi CM, Sakaki K, Nozawa T, Ikeda S, Yokota S, Magistro D, Sassa Y, Kawashima R.
	34. Automatic adaptive emotion regulation is associated with lower emotion-related activation in the frontoparietal cortex and other cortical regions with multi-componential organization.	共	2023年3月	Front Behav Neurosci. 2023 Mar 6;17:1059158. doi: 10.3389/fnbeh.2023.1059158.	Sugiura M, Katayori Y, Muratsubaki T, Shiratori M, Hanawa S , Nejad KK, Tamura D, Kawashima R, Fukudo S.

区 分	著書・論文・発表テーマ・ 作品・演目などの名称	単 ・ 共	発 行・ 発 表 年月(日)	発行所／誌名・巻号 ／学会・展覧会・演 奏会の名称(会場名)	備 考
学会発表	1. 内部世界の意識経験への “まなざし”を重要視しながら 関わった脳腫瘍の再発・手 術後の認知神経リハビリテー ション～左上肢麻痺改善、 復職内定に至った症例～ (査読付)	単	令和元年 10 月	第20回認知神経リハ ビリテーション学会学 術集会, 東京	<u>埴杉子</u>
	2. 自閉症スペクトラム児と定型 発達児における, じゃんけ んのような3すくみの関係の 学習時の行動上の違いとそ の原因の追及	単	令和元年5月	第6回日本臨床作業 療法学会, 静岡	<u>埴杉子</u>
	3. 自閉症スペクトラム児と定型 発達児における, じゃんけ んのような3すくみの関係の 学習時の行動上の違いとそ の原因の追及	単	令和2年5月	第11回日本ニューロ リハビリテーション学 会学術集会, 岐阜	<u>埴杉子</u>
	4. 「名古屋市の学童保育に おける障がい児の受け入 れ状況と作業療法士への 希望に関する調査(指導員 へのアンケート調査)」	単	令和2年9月	第54回日本作業療 法学会(Web学会)	<u>埴杉子</u>
	5. インクルーシブ学童保育に おけるアンケート 一障がい のある子どもの保護者の方 への実態調査一	共	令和3年9月	第55回日本作業療 法学会(仙台)	<u>埴杉子</u>
	6. ADL訓練よりも模倣を用いた 認知神経リハビリテーショ ンが有効であった一症例		令和3年10 月	第21回認知神経リハ ビリテーション学会学 術集会	<u>埴杉子</u> , 井筒孝憲, 太田卓司, 中 里瑠美子
その他	(紀要) 読字障害児における音韻処理機 能と姿勢平衡機能の関連：読字 障害における小脳障害仮説の検 討－ The relationship between phonological processing function and Equilibrium and Antigravity Posture in reading disorder children : Investigation of cerebellar abnormality model in reading disorder	共	令和元年	研究紀要 / [白鳳女 子短期大学] [編] (14) 85-89 2019年	高畑 脩平, 奥津 光佳, <u>埴杉子</u> , 浅野 紀美江, 山口 清明, 井川 典克

区 分	著書・論文・発表テーマ・ 作品・演目などの名称	単 ・ 共	発 行・ 発 表 年 月 (日)	発行所／誌名・巻号 ／学会・展覧会・演 奏会の名称(会場名)	備 考
その他 (報告書)	(報告書) 7. 1. 学童保育における専門 職のコンサルテーションに 関する研究報告	単	令和元年3月	独立行政法人福祉医 療機構社会福祉復興 助成事業 (WAM 助 成)	研究1:学童保育における障がい をもつ児童の受け入れ状況, 対応 に関する実態調査(指導員へのア ンケート調査) 研究2:インクルーシブ学童保育 におけるアンケート～障がいの あるお子様の保護者の方への実 態調査～ 担当:研究計画～実施～解析～執 筆 <u>壺杉子.</u>